

栃事研会報

第100号 令和4年3月18日発行
栃木県公立小中学校事務職員研究協議会
編集発行人 安田 晃一

<主な内容>

- 副会長あいさつ
- 栃木県公立小中学校事務研究大会
- 受賞者あいさつ・お知らせ

栃事研HP

<http://tochijiken.sakura.ne.jp/nc3>

副会長あいさつ

栃事研副会長 落合 篤子

次年度の準備もしながら、今年度の仕事を行うという多忙な時期になってきました。皆様は、複数の業務をどのような創意工夫をして管理しているのでしょうか。私は、手帳をツールとして活用しており、今年度仕事用には学校事務職員向け手帳を使用中です。その手帳の週間予定表の余白に事務職員の“知恵袋コラム”が掲載されています。「時短術」や「事務職員のやりがいを感じる時」など楽しく読んでいます。その中に「忘れられない先輩の言葉」というコラムがあり、心に残る言葉がありました。「仕事は、忍耐ではなく攻略」という言葉です。攻略とは「敵地などを攻め取る」意味ですが、現在は固定的な目標に何らかの準備をもって攻め入るといったニュアンスも含まれるようです。戦略的に行動し、現状を打破する事務職員になりなさいと励まされた気がしました。

今年度より栃事研副会長を務めさせていただいていますが、令和3年度の栃事研総会は、書面決議となり県研究大会、全国大会発表は動画での開催となりました。また、その他研修会等も開催方法を変更・中止するなど、今までのような活動ができない分、形や方法を工夫することに苦慮した1年でした。まだまだ終焉が見えない状況で不安もありますが、栃事研としてもコロナ禍というこの変化をも確実に活動に結び付け、子どもたちの学びの充実を図る学校事務の実現のため会員の皆様と共に、推進してまいりたいと思います。

令和3年度栃木県公立小中学校事務研究大会

大会テーマ

令和3年11月26日（金）～12月17日（金）の動画配信による研究大会を開催いたしました。

本研究大会は、大会テーマ「実現しよう！子どもの学びの充実を図る学校事務を」、サブテーマ「～「実践」から見る学校経営参画 実践・行動～」のもと、めまぐるしく変化していく環境を確実に捉え、学校経営参画を通して、子どもの学びの充実を図る手法や手立てを考え、子どもの豊かな育ちを支援する学校事務を追求し、活動に結び付け拡げていくことを目的としました。

地区発表

地区発表では、芳賀地区（芳賀郡市公立小中学校事務職員研究協議会）より「つなごう！芳賀の『わ』～和をもって協働し、連携の環を拡げよう～」をテーマに、芳賀地区の市町事務研や共同実施組織、芳事研の取組について、動画配信と発表資料による提案がありました。芳事研と市町事務研のすみわけや、「仕事」と「研修」の違い、芳事研の存在意義について報告がありました。市町単位では、「仕事」が基本であり仕事をするにあたって必要な「研修」を行い、芳事研では、教養を深め人材を育成するといった必要な「研修」を行う組織というすみわけができたことから、様々な組織の中での役割を明確にしていけば仕事



のスリム化につながる、絶えず現場で望まれる（求められている）事務職員とは何かを考えることが必要であるとまとめられました。



全事研埼玉大会 支部提案発表

栃事研研究部から、テーマを「子どもの学びを凶る学校事務」～「実践」から見た学校経営参画～とした、提案発表がありました。

とちぎの事務職員5年目B主任の節電・節水の意識向上と環境活動の実践を取り上げ、「経営参画」の3つの視点「マネジメント」「共同学校事務室」「熟議」から分析・検証が行われ、「とちぎの目指す経営参画」について具体的な説明がありました。「マネジメント」では、「評価」「分析・検証」が特に大切であること。「共同学校事務室」では、この組織がいかに各学校、各事務職員の実践行動において支援機能を果たせるのか、教育の主体となり得るのかということ。「熟議」では、保護者や地域などの声や考え、実行力を、学校経営にいかに反映させていくか、あるいは一緒に行動していけるのかということ。これらの課題解決こそが、とちぎの目指すもう一つの「学校経営ビジョン策定への参画」につながるとの話がありました。事務職員は、教育の最前線で仕事をしている学校経営を担う職員です。実践力を高めていくことが大切であり、それには、学校や共同学校事務室、地域といった場で、どれだけの実践を積み重ねていくかが重要となります。もう一つ大事なのは実践や行動の過程において考えたこと、学んだこと、失敗したこと、成功したこと全てにおいて分析・検証をし、次の改善につなげていくことです。日々の取組、実践の積み重ね、この実践と行動から「経営参画」は始まるのですといった話がありました。

とちぎの活動は、学校経営参画から新たな局面、カリキュラムマネジメントへの参画、更に、地域学校協働への参画を視野に入れて活動を進めていきます。カリキュラムマネジメントとこれからの学校事務、必要な条件整備について考えたとき、どのように状況が変わろうとも、とちぎの目指す学校事務は子どもの学びの充実を図ることです。多忙が常態化する学校、変化の激しい時代において、未来を創る子どもたちの豊かな育ちを支援するためには、現状に留まることのない「これからの学校事務の創造」を常に創り上げていくことが大切です。私たち事務職員は、事務をつかさどる職として、子どもの学び、子どもの未来づくりに責任をもって主体的に参画するといった使命感をもって実践を積み重ね、自ら行動していくことが新しい時代、これからの時代に最も重要といった話がありました。

提案発表で述べてきたとちぎの目指す学校事務の在り方が、子どもの学びの充実を図る学校事務につながるよう、今後も活動を進めていきたいと締めくくられました。



「第2期とちぎ学校事務ビジョン」リーフレットについて

栃事研ビジョン推進チームから、ビジョン全体像、「第2期とちぎ学校事務ビジョン」と「サクセスプラン」について、改めて説明がありました。とちぎの事務職員像やとちぎサクセスプランについて、課題解決に必要な8つの条件（能力開発・運営組織・法的整備・支援組織・業務改善・学校の働き方改革・事務職員制度・評価制度）を達成するための各組織の「実践」と「行動」について確認しました。



受賞おめでとうございます

文部科学大臣優秀教職員表彰

日光市立東中学校 事務長 倉澤 由佳

このたびは、身に余る賞をいただき大変恐縮しているとともに、改めて、支えてくださいました皆様のご指導、ご支援に深く感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、今後もより一層努力し、これまでの経験を生かしながら「子どもの学びの充実を図る」実践を推進してまいりたいと思います。

とちぎ教育賞

小山市立間々田中学校 主任 山ノ上 裕樹

このたびは身に余る賞をいただき、驚きとともに大変恐縮しております。ここまで教えてくださった諸先輩方や、周りの皆様の支えのおかげと感謝の気持ちでいっぱいです。これからも皆様と共に協力し、子どもたちのために頑張っていきたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

とちぎ教育賞

那須町立那須中学校 事務長 落合 勲

30余年も学校事務一筋にもかかわらず、後進のために何をしてきたのだろう。先達の小さな失敗談を身に纏いながら、独自の道を掘り進んできたが、未だ開通には至らない。天からのご褒美であろう「とちぎ教育賞」は、まだまだという期待の表れ。仲間に感謝するとともに、今後も汗を流し続けたい。

とちぎ教育賞

足利市立山前小学校 事務長 木暮 由起子

このたび、身に余る賞をいただき大変恐縮しております。多くの諸先輩方や同僚に支えていただき、今があると深く感謝しております。まだまだ目指すべき事務職員像には程遠い自分ではありますが、これからもより一層成長できるように、日々努力を続けていきたいと思っています。

栃事研からのお知らせ

令和4年度栃事研研修会並びに総会
令和4年5月31日（火）

会場 宇都宮市文化会館